

Visceral pleural invasion classification in non-small cell lung cancer

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2017-01-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 川瀬, 晃和 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/3137

論文審査の結果の要旨

肺がんの治療方針を決めるには、その合理的な staging が必須である。長年にわたる、試行から、現在肺がんの専門領域では、手術でとられた肺がんの胸膜の浸潤という現象を記述、評価、カテゴライズすることが行われている。申請者はそのなかで、臓側胸膜の弾性板を弾性線維染色で認識することで、その部分に腫瘍が達するあるいはそれを越えて胸腔へ露出するという胸膜浸潤の実態を、顕微鏡的評価しその臨床的意義を解析した。1施設で、2000例以上の手術例を用いて、腫瘍の大きさによる T 因子との組み合わせで詳細に検討すると、T1b (2cm 以上 3cm 未満) で臓側胸膜浸潤のある症例は、より腫瘍サイズの大きな T2a (3cm 以上) で臓側胸膜浸潤のない症例と同じような予後経過をたどることを明らかにし、臓側胸膜浸潤のある症例は、より一段階ステージが進んだものとして扱うことの合理性を提案した。胸膜浸潤の意義を詳細かつ多数例検索した研究はさらに、数年後の多施設症例の研究へと発展して、その意義が確認されている。肺がん治療の指針は、数多くの改版が重ねられているが、申請者の本論文は国際的な分類の中にも引用され、影響を与えている。肺がんの胸膜浸潤が何故予後に影響を与えるかなど、深い生物学的洞察も含め、申請者の仕事は、本邦の肺がんの臨床・病理分野ではエポックメイキングな仕事と位置づけられており、多くの臨床実務家がこの知見をもとに業務を行っているのが実情である。

以上により、本論文は博士(医学)の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者	主査	梶村 春彦	副査	須田 隆文	副査	中村 和正
---------	----	-------	----	-------	----	-------